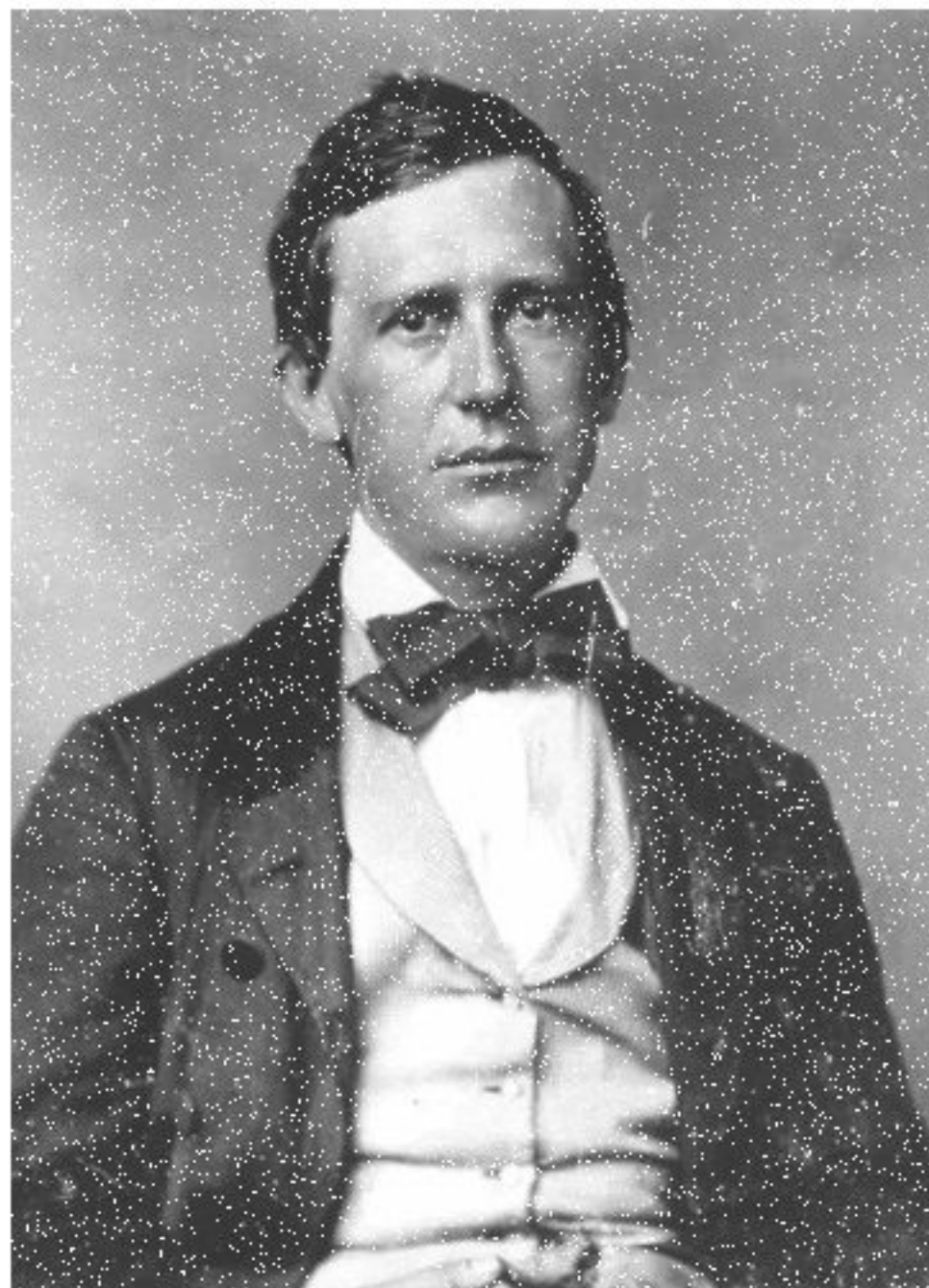




すてい〜ぶと ゆかいな なかまたち

【清楽月琴譜】



「工尺譜」というのは中国の古い楽譜だよ～。
 中国は漢字の国だから、ドレミを漢字にあてはめたんだね。

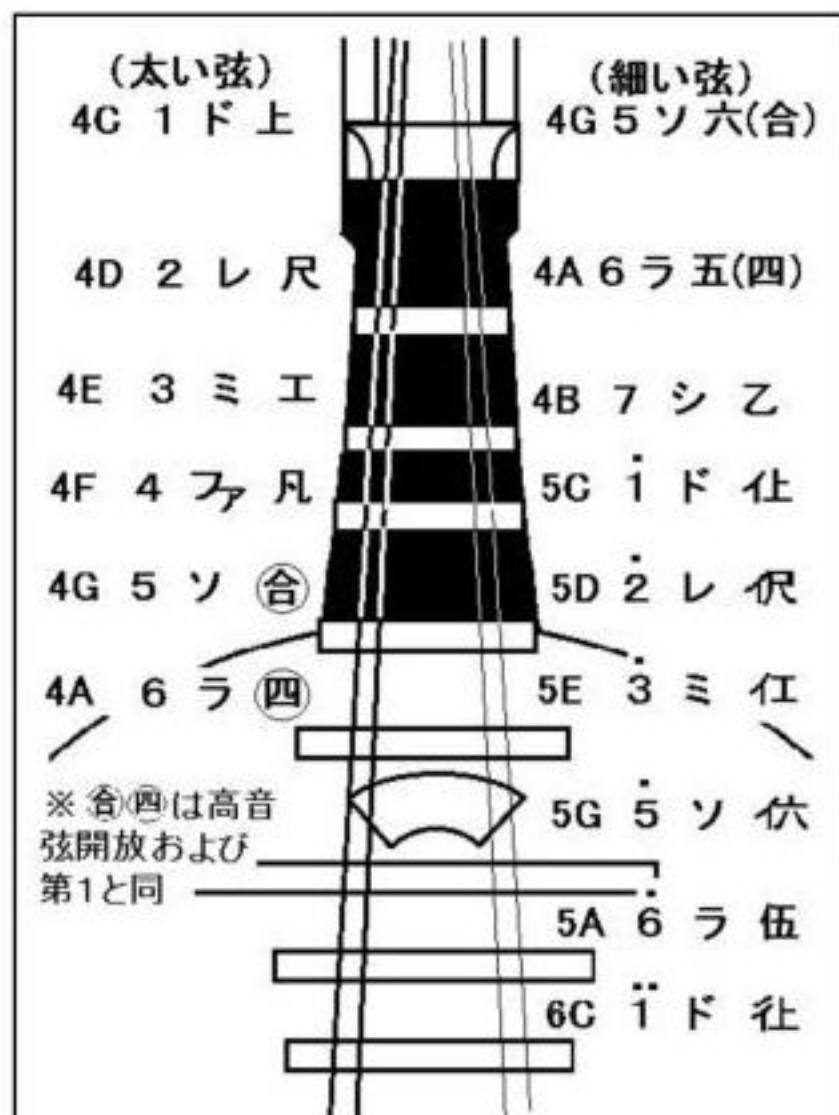
ソ	ラ	シ	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド	レ	ミ
5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3
合	四	乙	上	尺	工	凡	六	五	乙	仕	伋	仁

明笛はこの並びだけど、月琴は「上」より低い音がないから、「合四」はぜんぶ「六五」と同じ音になるよ。

上ーエー	尺ー○	エー四上	尺工上四
カーン カーン	エー	スー スー	キウ レン
看 々	兮	賜 奴的	九 連
合ー合四	仕ー仕合	四ー○	四仕四仕
クワン	キウ ヤ キウ レン	クワン	スヤン シウ ナライ
環	九呀九連	環	双手拿来
四ー仕四	合ー○	四合四仕	合ー○
キヤイ	キヤーイ	ナバ ナバ	クワン
解 不 解		拿把刀兒	割
エーエー	尺工六ー	五六工尺	上ー尺
クワン	ドワン リヤウ	エエ エエ	ユーウ
割 不 断	の 了	也 々	呦
上ー○			
ウー			

1文字が1拍だよ。「ー」は1拍伸ばす、「○」は1拍休むで、半分の音は「上」みたいに細くなって下線がつくよ。

下段には歌詞がつくよ。

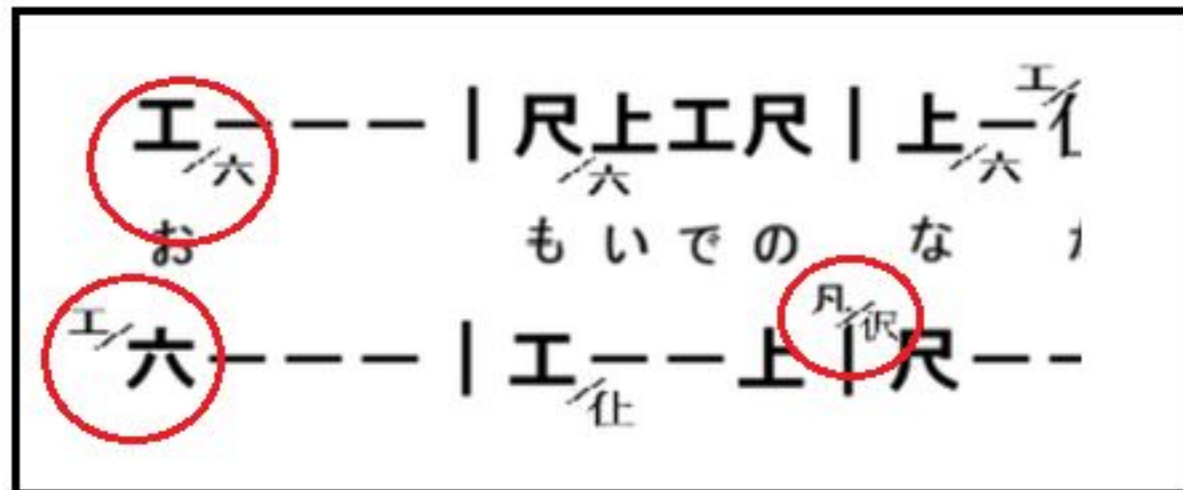


月琴のちゅ〜にんぐは、「ドとソ」と「レとソ」の2種類あるよ。「レとソ」の時には「ファ」が半音高くなるね。

何にも書いてなかったら「ドとソ」, 「尺合調」って書いてあったら「レとソ」にしてね。

月琴は半音がないから, 半音が欲しい時はちょ〜きんぐをするよ。

「▲」は高音弦(ソのほう)を押し上げる, 「▼」は低音弦を押し下げて半音上げる印だよ。



音符の上とか下に付いてるこの小さい字は、コード演奏の符だ。月琴は伴奏楽器なんで、歌いながら弾くとかの時はコード演奏のほうがラクだぜ。

「エ／六」ってあったら「ミ」と「ソ」だから、低音弦の2フレット目を押さえてジャランと弾く、高音弦は押さえないでいい。
「エ／イ上」なら低2と高3を指2本で押さえてジャランだ。
メロディに関係ない音を入れたい時は「凡／イ尺」のどこみたいに符の外に書くぜ。

コード演奏はきほんコードのあるところだけ弾いてればいいぜ。
余裕があったら、サビのとことかパラパラと弾いてやるとカッコイイぞ。

001. Open Thy Lattice, Love

六-凡[▽]六五五〇六 | 六-仁仕-六 | 六凡工工-凡工 |
なれのまど は な てよ う みよりなでる

尺-工凡工-〇六 | 凡[▽]-工凡[▽]六-凡[▽]六 | 五-五乙-仕乙 |
すずかぜ つ きかげあおき みな もす べり

乙-五乙[△]仕仕-五 | 六五-凡[△]六-〇六 | 仕-六六六-凡工 |
ほしはなれを みまもる あ さ ひのおかに

凡六凡工-工 | 尺尺工六凡尺 | 上仕五六-凡 |
さすまえ は やゆかん うみの はてまで さあ

工工凡六五〇五六 | 六凡[▽]六仁-仁[△] | 仕乙五六-凡工 |
なれのまど はな あて や つき もそよか ぜも

尺-凡工上- |
まってゐる

Open thy lattice love, listen to me!
The cool balmy breeze is abroad on the sea!
The moon like a queen, roams her realms of blue,
and the stars keep their vigils in heaven for you
Ere morn's gushing light tips the hills with its ray,
Away o'er the waters away and away!

※Then open they lattice, love listen to me!
While the moon's in the sky and breeze on the sea!

Open thy lattice, love listen to me!
In the voyage of life, love our pilot will be!
He will sit at the helm wherever we rove,
and steer by the load-star he kindled above
His shell for a shallop will cut the bright spray,
Or skim like a bird o'er the waters away.

※

フォスター 16 歳時の作曲になる処女作。
issued:1844

要チャーキング音は「凡[▽]」のみではあるが、
F・F[#]ともに用いられるので、尺合調では弾け
ない。

汝れの窓 はなてよ
海よりなでる 涼風
月影 碧き 水面 すべり
星は 汝れを 見守る
朝日の丘に 射す前
はや行かん 海の果てまで
さあ 汝れの窓 はなてや
月も そよ風も 待ちゐるに

汝れの窓 はなてよ
御子の指さす御まに
われらは 帆綱 とりて めざせ
御子のともす あの星
光の船は軽(かる)やに
水面の間を 散らすよ
さあ 汝れの窓 はなてや
月も そよ風も 待ちゐるに

002. Jeanie with the light brown hair

(上合調)

* 解説別掲

(尺合調)

尺 _五 尺 _五 一 尺 _五 一 一 五 五 [△] 五 六 凡 上 _五 一 上 尺 凡 _五 一 一 〇 一 一 尺 _五 一 一 乙 上 _五 乙 五 六 乙 一 尺 工 六 一 一 〇	い と し な れ が あ ま い ろ の	い と し な れ が あ ま い ろ の
尺 _五 一 六 五 尺 _五 一 尺 _五 一 上 _五 一 五 六 凡 上 _五 六 〇 尺 _五 一	か す む よ う な か み の い ろ な	六 一 五 乙 尺 _五 一 一 一 尺 _五 一 乙 五 六 五 〇 一 一
尺 _五 一 一 五 五 [△] 五 六 凡 上 _五 一 上 尺 凡 _五 一 一 〇	れ の か わ べ に た わ む れ ば	尺 _五 一 一 乙 上 _五 乙 五 六 乙 一 尺 工 六 一 一 〇
上 _五 六 五 乙 上 尺 _五 一 五 尺 _五 一 上 _五 一 乙 乙 上 _五 一 一 〇	ひ な ぎ く よ ろ こ び ま い お ど る	五 六 上 尺 _五 尺 _五 一 乙 尺 _五 尺 _五 一 上 上 尺 _五 一 一 〇
上 _五 六 五 六 凡 上 _五 六 一 五 六 凡 工 凡 五 尺 _五 一 一 一	つ た な き う た の か ず か ず も	五 乙 五 六 五 一 乙 五 六 凡 六 乙 尺 _五 一 一 一
尺 _五 尺 _五 上 尺 _五 尺 _五 上 _五 一 五 六 上 _五 一 尺 _五 一 上 _五 一 一 一	よ う き な と り に や お き に い り	尺 _五 一 尺 _五 上 尺 _五 一 乙 五 六 一 工 一 尺 _五 一 一 〇
上 _五 尺 _五 工 凡 六 五 五 尺 _五 〇 尺 _五 一 尺 _五 一 一 五 五 [△] 五 六 凡	お… い と し ジ ニ ー の	尺 _五 工 凡 六 五 乙 上 尺 _五 〇 一 一 尺 _五 一 一 乙 上 _五 乙 五 六
上 _五 一 上 尺 凡 _五 一 一 〇 六 ^四 五 尺 _五 一 上 _五 尺 _五 凡 〇	お も か げ よ な つ そ ら が ご と	乙 一 尺 工 六 一 一 〇 五 乙 尺 _五 一 尺 _五 一 六 〇
凡 ^上 六 五 一 上 _五 五 六 一 一 凡 _五 一 一 〇	や さ し い ろ よ	六 五 乙 一 乙 五 一 一 六 一 一 〇

愛し汝れが亜麻色の
 霞むような 髪の色
 汝れの川辺に戯れば
 雛菊喜び舞い踊る
 拙き歌の数々も
 陽気な鳥にやお気に入り
 お…愛しジニーの面影よ
 夏空がごと 優し色よ

汝れの笑顔に夜(よ)明けて
 いとけなき かがやきよ
 汝れが哀しく歌えば
 嘆きに 心 張り裂けん
 ため息夜風 涙雨
 なくしたものは 還らない
 お…愛しジニーの面影よ
 川辺に浮かぶ 今はなきに

汝れの面影 薄れて
 故郷も はや遠し
 笑みも 優しき歌も
 わずかの 夢と 消え失せん
 川辺の花も枯れ果てて
 美し指の手折るなし
 お…愛しジニーの面影よ
 夏空がごと 優し色よ

Jeanie with the light brown hair

I dream of Jeanie with the light brown hair,
 Borne, like a vapor, on the summer air;
 I see her tripping where the bright streams play,
 Happy as the daisies that dance on her way.
 Many were the wild notes her merry voice would pour.
 Many were the blithe birds that warbled them o'er:
 Oh! I dream of Jeanie with the light brown hair,
 Floating, like a vapor, on the soft summer air.

I long for Jeanie with the day dawn smile,
 Radiant in gladness, warm with winning guile;
 I hear her melodies, like joys gone by,
 Sighing round my heart o'er the fond hopes that die:
 Sighing like the night wind and sobbing like the rain,
 Wailing for the lost one that comes not again:
 Oh! I long for Jeanie, and my heart bows low,
 Never more to find her where the bright waters flow.

I sigh for Jeanie, but her light form strayed
 Far from the fond hearts round her native glad:
 Her smiles have vanished and her sweet songs flown,
 Flitting like the dreams that have cheered us and gone.
 Now the nodding wild flowers may wither on the shore
 While her gentle fingers will cull them not more:
 Oh! I sigh for Jeanie with the light brown hair,

003. OLD FOLKS AT HOME (Swanee River)

(上合調)

$\text{工} \text{---} \text{尺} \text{上} \text{工} \text{尺} \text{上} \text{---} \text{仕} \text{---} \text{五} \text{仕} \text{---}$
 お もいでの な が れの
 $\text{工} \text{六} \text{---} \text{工} \text{---} \text{上} \text{尺} \text{---} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 か な た に
 $\text{工} \text{---} \text{尺} \text{上} \text{工} \text{尺} \text{上} \text{---} \text{仕} \text{---} \text{五} \text{仕} \text{---}$
 な つかしの は ら から
 $\text{工} \text{六} \text{---} \text{工} \text{上} \text{尺} \text{---} \text{尺} \text{---} \text{上} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 い まも す め り
 $\text{工} \text{---} \text{尺} \text{上} \text{工} \text{尺} \text{上} \text{---} \text{仕} \text{---} \text{五} \text{仕} \text{---}$
 い くやまか わ を こえ
 $\text{工} \text{六} \text{---} \text{工} \text{---} \text{上} \text{尺} \text{---} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 さ す ら う
 $\text{工} \text{---} \text{尺} \text{上} \text{工} \text{尺} \text{上} \text{---} \text{仕} \text{---} \text{五} \text{仕} \text{---}$
 こ のみにも し た わし
 $\text{工} \text{六} \text{---} \text{工} \text{上} \text{尺} \text{---} \text{尺} \text{---} \text{上} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 わ がふ る さ と

chorus

$\text{尺} \text{乙} \text{---} \text{仕} \text{尺} \text{尺} \text{六} \text{---} \text{六} \text{---} \text{五} \text{六} \text{---} \text{仕} \text{---}$
 お ち こ ち さ す ら い
 $\text{尺} \text{仕} \text{---} \text{五} \text{---} \text{尺} \text{---} \text{五} \text{---} \text{六} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 な げ き つ つ

$\text{工} \text{---} \text{尺} \text{上} \text{工} \text{尺} \text{上} \text{---} \text{仕} \text{---} \text{五} \text{仕} \text{---}$
 わ が ころ わ び しや
 $\text{工} \text{六} \text{---} \text{工} \text{上} \text{尺} \text{---} \text{尺} \text{---} \text{上} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 い えを は な れ

(尺合調)

$\text{乙} \text{---} \text{五六} \text{乙} \text{五} \text{六} \text{---} \text{伏} \text{---} \text{任} \text{伏} \text{---}$
 お もいでの な が れの
 $\text{伏} \text{---} \text{乙} \text{---} \text{六} \text{五} \text{---} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 か な た に
 $\text{乙} \text{---} \text{五六} \text{乙} \text{五} \text{六} \text{---} \text{伏} \text{---} \text{任} \text{伏} \text{---}$
 な つかしの は ら から
 $\text{伏} \text{---} \text{乙} \text{六} \text{五} \text{---} \text{五} \text{---} \text{六} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 い まも す め り
 $\text{乙} \text{---} \text{五六} \text{乙} \text{五} \text{六} \text{---} \text{伏} \text{---} \text{任} \text{伏} \text{---}$
 い くやまか わ を こえ
 $\text{伏} \text{---} \text{乙} \text{六} \text{五} \text{---} \text{五} \text{---} \text{六} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 さ す ら う
 $\text{乙} \text{---} \text{五六} \text{乙} \text{五} \text{六} \text{---} \text{伏} \text{---} \text{任} \text{伏} \text{---}$
 こ のみにも し た わし
 $\text{伏} \text{---} \text{乙} \text{六} \text{五} \text{---} \text{五} \text{---} \text{六} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 わ がふ る さ と

chorus

$\text{伏} \text{---} \text{伏} \text{伍} \text{---} \text{伏} \text{---} \text{伏} \text{---} \text{任} \text{伏} \text{---}$
 お ち こ ち さ す ら い
 $\text{伏} \text{---} \text{任} \text{仕} \text{---} \text{任} \text{---} \text{伏} \text{---} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 な げ き つ つ
 $\text{乙} \text{---} \text{五六} \text{乙} \text{五} \text{六} \text{---} \text{伏} \text{---} \text{任} \text{伏} \text{---}$
 わ が ころ わ び しや
 $\text{伏} \text{---} \text{乙} \text{六} \text{五} \text{---} \text{五} \text{---} \text{六} \text{---} \text{---} \text{〇}$
 い えを は な れ

* 演奏解説別掲

OLD FOLKS AT HOME (Swanee River)

思ひでの流れの 彼方に
 懐かしのはらから 今も住めり
 幾山河を越え さすらふ
 この身にも慕わし 我がふるさと

※おちこち さすらひ 嘆きつつ
 我が心わびしや 家を離れ

若き日を 幾年 娛しく
 歌ひつつ 川辺を さまよひしぞ
 たぐひなく優しき 御母よ
 疾く帰りゆかまし 汝が御許に

※

なつかしのものの音 今なを
 我が胸にわびしく 響きわたる
 愁わしき心に 浮かべる
 思ひでの我が家よ あわれいずこ

※

Way down upon de Swanee ribber,
 Far, far away,
 Dere's wha my heart is turning ebber,
 Dere's wha de old folks stay.
 All up down de whole creation,
 Sadly I roam,
 Still longing for de old plantation,
 And for de old folks at home.

※ All de world am sad and dreary,
 Eb'ry where I roam,
 Oh! darkeys how my heart grows weary,
 Far from de old folks at home.

All round de little farm I wandered
 When I was young,
 Dem many happy days I squandered,
 Many de songs I sung.
 When I was playing wid my brudder
 Happy was I.
 Oh! take me to my kind old mudder,
 Dere let me live and die.
 ※

One little hut among de bushes,
 One dat I love,
 Still sadly to my mem'ry rushes,
 No matter where I rove
 When will I see de bees a humming
 All round de comb?
 When will I hear de banjo tumming
 Down in my good old home?
 ※

004. GENTLE ANNIE

工尺 | 上^六上^六 | 尺^六上^六尺 | 工^上仕^上—— | —○乙五 |
 ああ ア ニ — おさ らば はな
 上^六六——五 | 上^六一尺工 | 尺^六——— | —○工尺 |
 の し ぼ むご と きみ
 上^六上^六 | 尺^六上^六尺 | 工^上仕^上—— | —○乙五 |
 さ れ ど いっ しか わが
 上^六六—凡工 | 工尺上(尺) | 上^六——— | ———○ |
 む ねの うちに さ け

CHORUS

六六 | 五^凡尺—— | 仕^凡——五 | 上^六六——— | 工^上—乙仕 |
 いと しき す が た も かわ
 工^上——尺 | 上^六一尺工 | 尺^六——— | —○工尺 |
 い こえ も うせ て はる
 上^六上^六 | 尺^六上^六尺 | 工^上仕^上—— | —○乙五 |
 が き ても ああ アニー のに
 上^六六—凡工 | 工尺上(尺) | 上^六——— | ———○ |
 は なの あふれて も

原曲で「(尺)」に該当する箇所は、「上」より低い「乙(春)」なので、月琴では出せない。前符「上」を2拍として飛ばす、1オクターブ上の「乙」で弾くという手もあるが、どちらもあまり聞こえは良くない。より正確なメロディを尺合調で弾けなくもないが、開始が「乙」からで最高音が「凡」となり、演奏上の難度に比して、メリットは少なかった。歌唱の伴奏として、上合調でコードをあざえての演奏がもっとも妥当と考える。

ああアニーおさらば
 花のしぼむがごと
 きみ去るやいつしか
 わが胸のうちに咲かむ

※愛しき姿も
 可愛い声も失せて
 春が来ても ああアニー
 野に花のあふれても

愛しあうあのことろ
 やはらかき汝れが類
 いま汝れを弔う
 花の香につつまれて

※

ああつのる悲しみ
 やすらかに寝(いぬ)る汝れ
 我そぞろ歩むは
 あの小川あの野原
 ※

Thou wilt come no more,
 gentle Annie,
 Like a flower thy spirit did depart:
 Thou are gone, alas!
 like the many
 That have bloomed in the
 summer of my heart.

※Shall we never more behold thee;
 Never hear thy winning voice again
 When the Spring time comes,
 gentle Annie,
 When the wild flowers are
 scattered o'er the plain?

We have roamed and loved
 mid the bowers
 When thy downy cheeks were in their bloom;
 Now I stand alone
 mid the flowers
 While they mingle their
 perfumes o'er thy tomb.

※

Ah! the hours grow sad
 while I ponder
 Near the silent spot where thou are laid,
 And my heart bows down
 when I wander
 By the streams and the
 meadows were we strayed.

※

005. Under The Willow She's Sleeping

^エ ^エ ^エ | ^凡 ^エ ^凡 | ^上 ^六 ^〇 ^上 | ^上 ^六 ^一 ^〇 |
 (あ)やなぎ のこか げ に は
^エ ^エ ^エ | ^上 ^尺 ^上 | ^上 ^一 ^尺 | ^上 ^尺 ^一 ^〇 |
 あ の こ が ね む る の と
^エ ^エ ^エ | ^凡 ^エ ^凡 | ^上 ^六 ^〇 ^上 | ^上 ^六 ^一 ^〇 ^上 |
 み は は た だ な き ぬ れ い
^上 ^尺 ^上 | ^上 ^凡 ^上 | ^上 ^尺 ^〇 ^上 | ^上 ^一 ^〇 |
 と し き あ こ に う た う

CHORUS

^上 ^上 ^上 | ^上 ^乙 ^上 ^上 | ^上 ^六 ^一 ^上 | ^上 ^六 ^一 ^〇 |
 Fair, fair, and golden hair,
^上 ^上 ^上 | ^上 ^尺 ^上 | ^上 ^一 ^尺 | ^上 ^尺 ^一 ^〇 |
 み は は ひ と り う た う
^上 ^上 ^上 | ^上 ^乙 ^上 ^上 | ^上 ^六 ^一 ^上 | ^上 ^六 ^一 ^〇 |
 Fair, fair, and golden hair,
^上 ^上 ^上 | ^上 ^凡 ^上 | ^上 ^尺 ^〇 ^上 | ^上 ^一 ^〇 |
 や な ぎ の こ か げ ね む る
 い ま は な き わ が こ に

1. (あ) 柳の木陰には
 あの子が眠るのと
 御母ただ泣きぬれ
 愛しき吾子に歌う

Fair, fair, and golden hair,

※ 御母ひとり歌う

Fair, fair, and golden hair,

柳の木陰眠る

2. 土の中とならば

(わが) 歌もとどかない

(でも) 遠く鳥は歌う

命輝かせて ※

3. 柳の木の下で
 昼も夜もずっと
 愛し子を思えど
 汝れは帰らない ※

柳の木の下で
 永久に祈らむ

4. 天に登る吾子よ
 黄金のその髪愛し

※ 今は亡き我が子に

Under the willow she's laid with care
 Sang a lone mother while weeping,
 Under the willow, with golden hair,
 My little one's quietly sleeping.

Fair, fair, and golden hair,

※ Sang a lone mother while weeping,

Fair, fair, and golden hair,

Under the willow she's sleeping.

Under the willow no songs are heard,
 Near where my darling lies dreaming;
 Nought but the voice of some far off bird
 Where life and its pleasures are beaming. ※

Under the willow by night and day
 Sorrowing ever I ponder;
 Free from its shadowy, gloomy ray
 Ah! never again can she wander. ※

Under the willow I breathe a prayer
 Longing to linger forever
 Near to my angel with golden hair
 In lands where there's sorrowing never. ※

006. OLD DOG TRAY

(上合調)

上^{凡/五} | 上^工凡^上工^凡 | 六^上—六^上 | 五^上六^上工^上 | 五^上—五^上 |
 と きのすぎ て と しをかさ ね は
 上^五合^上—六^上六^上 | 仕^上—四^上凡^上 | 凡^上—工^上五^上 | 六^上—〇^上上^上 |
 て もち か くな り にけ る ゆ
 上^{凡/五} | 上^工凡^上工^凡 | 六^上—六^上 | 五^上六^上工^上 | 五^上—五^上 |
 めにみつ は た のしきひ び と
 上^{凡/五} | 五^上—尺^上六^上 | 凡^上—工^上工^上 | 凡^上— — — | — — — 〇^上 |
 も とか け しの よ

CHORUS

上^工 | 仕^上—六^上— | 六^上—六^上五^上 | 凡^上— — — | 上^上— — 〇^上 |
 わ が いぬトレイ さ ら ば
 上^工 | 仕^上—六^上六^上 | 六^上—凡^上六^上 | 五^上— — — | — — — 上^上 |
 ちゅうぎ あ つ き た
 上^{凡/五} | 上^工凡^上工^凡 | 六^上—六^上 | 五^上六^上工^上 | 五^上—五^上 |
 れ より も や さしきか な か
 上^上 | 五^上五^上尺^上六^上 | 凡^上—工^上— | 凡^上— — — | — — — 〇^上 |
 へ なき わが とも トレイ

(尺合調)

尺 | 尺六凡六 | 五—五 | 乙合凡尺 | 乙—乙 |
 と きのすぎ て と しをかさ ね は
 五^上—乙乙 | 尺—仕六 | 六—凡乙 | 五—〇尺 |
 て もち か くな り にけ る ゆ
 尺六凡六 | 五—五 | 乙五凡尺 | 乙—乙 |
 めにみつ は た のしきひ び と
 乙—工五 | 六—凡凡 | 六— — — | — — — 〇 |
 も とか け しの よ

CHORUS

尺—五— | 五—乙五 | 六—乙 | 尺— — 〇 |
 わ が いぬトレイ さ ら ば
 尺—五五 | 五—六五 | 乙— — — | — — — 尺 |
 ちゅうぎ あ つ き た
 尺六凡六 | 五—五 | 乙五凡尺 | 乙—乙 |
 れ より も や さしきか な か
 乙仕工五 | 六—凡— | 六— — — | — — — 〇 |
 へ なき わが とも トレイ

単純にメロディを再現する場合には、尺合調のほうが運指も楽だし、多少聞こえも良いが、さほどの差はない。

歌唱の伴奏としては、上合調でコードのみをなぞって、軽く刻んだものがもっとも有用と考える。

時の過ぎて 歳を重ね
果ても近く なりにける
夢にみつは 楽しき日々
友と駆けし野よ

※ わが犬 トレイ さらば
その忠義 篤き
誰よりも 優しきかな
かへなき わが友 トレイ

同胞とも いまは欠けて
親しき者 すべて逝き
微笑む貌 さざめく声
絶え 汝の残りしに
※

憶ふむかし あの瞳を
見れば通ず この愁い
言葉ひとつ かわさずとも
ああ わが友よ トレイ
※

The morn of life is past,
And evening comes at last;
It brings me a dream of a once happy day,
Of merry forms I've seen
Upon the village green,
Sporting with my old dog Tray.

Old dog Tray's ever faithful,
※ Grief cannot drive him away,
He's gentle, he is kind;
I'll never, never find
A better friend than old dog Tray.

The forms I call'd my own
Have vanished one by one,
The lov'd ones, the dear ones have all passed away,
Their happy smiles have flown,
Their gentle voices gone;
I've nothing left but old but old dog Tray.
※

When thoughts recall the past
His eyes are on me cast;
I know that he feels what
my breaking heart would say;

Although he cannot speak
I'll vainly, vainly seek
A better friend than old dog Tray.
※

007. Glendy Burke

* 解説別掲

尺 | 六六五五 | 乙乙止促六尺 | 六五乙止促仁 | 五ー〇尺 |

ディ グレンディ・パークあでかいふね せんだうもでかい お

六六五五 | 乙乙止促六五 | 乙乙五凡 | 六ー〇尺 |

おかぜまけど やねのうえに ら ん でる よ お

六六五五 | 乙乙止促六尺 | 六五乙止促仁 | 五ー〇尺 |

いらもここにやいられねえ まちを でよ う ず

六六五五 | 乙乙止促六五 | 乙乙五凡 | 六ー〇 |

だに ぼろぎ つめこんで ふ ね に のる よ

CHORUS

合 促一仁促 | 乙促〇尺 | 六六六五五 | 乙ー〇尺 |

おお ルイジ ア ナ ま ち を でよ や ず

六六六五五 | 乙乙止促六五 | 乙乙五凡 | 六ー〇 |

だに ぼろぎ つめこんで ふ ね に のる よ

ディ・グレンディ・パークあ でかい船 船頭もでかい
大風巻けど屋根のうえに ら ん でるよ
おいらもここにやいられねえ 町を出よう
頭陀に襤褸着つめこんで 船に乗るよ

※ おお、ルイジアナ！ 町を出よや
頭陀に襤褸着つめこんで 船に乗ろよ

ディ・グレンディ・パークの 船乗りは 陽気に歌う
窯に炊きものぶちこんで 船は進む
煙吐きエンジンうなっては 外輪の回る
ちよいと乗りたや粋な船 ディ・グレンディ・パーク ※

薔薇の花みた べっぴんに めぐり逢いたや
輝く故郷(さと)に誘ひて とともに暮らそ
だからわが君焦らすなよ 可愛いブラウン嬢
週のなかば 船きたら いっしょに往こう ※

De Glendy Burk is a mighty fast boat,
Wid a mighty fast captain too;
He sits up dah on de hurricane roof
And he keeps his eye on de crew.
I cant stay here, for dey work too hard;
I'm bound to leave dis town;
I'll take my duds and tote 'em on my back
When de Glendy Burk comes down.

※ Ho! for Lou'siana!
I'm bound to leave dis town;
I'll take my duds and tote 'em on my back
When de Glendy Burk comes down.

De Glendy Burk has a funny old crew
And dey sing de boatman's song,
Dey burn de pitch and de pine knot too,
For to shove de boat along.
De smoke goes up and de ingine roars
And de wheel goes round and round,
So fair you well! for I'll take a little ride
When de Glendy Burk comes down. ※

My lady love is as pretty as a pink,
I'll meet her on de way
I'll take her back to de sunny old south
And dah I'll make her stay
So dont you fret my honey dear,
Oh! dont you fret Miss Brown
I'll take you back 'fore de middle of de week
When de Glendy Burk comes down. ※

008. Hard Times Come Again No More

凡六^凡 | 五^凡-五^凡-五^凡 | 五仕^凡-一^凡五^凡 | 六^凡凡^凡-六^凡 | 五^凡〇^凡凡^凡-一^凡 |

よろ こ び-の かげ にや なみだあ り みんな

仕^凡-一^凡五^凡凡^凡 | 六^凡上^凡五^凡-五^凡 | 六^凡一^凡一^凡一^凡 | 一^凡〇^凡凡^凡六^凡 |

な みんな しって-る さ ころ

五^凡-五^凡-五^凡 | 五仕^凡-一^凡五^凡 | 六^凡凡^凡-六^凡 | 五^凡〇^凡凡^凡-一^凡 |

と も ぐち も みみにタ コ もう

仕^凡-一^凡五^凡凡^凡 | 六^凡上^凡五^凡六^凡 | 凡^凡一^凡一^凡一^凡 | 一^凡〇^凡五^凡五^凡 |

なんもかも まっぴら さ なげ

仕^凡-一^凡仕^凡-仕^凡 | 仕^凡仕^凡乙^凡仕^凡 | 凡^凡一^凡一^凡一^凡 | 仕^凡一^凡一^凡〇^凡 |

い て ばかりで いい の

凡^凡五^凡 凡^凡一^凡仕^凡- | 仕^凡一^凡仕^凡五^凡 | 五^凡五^凡六^凡凡^凡 | 六^凡〇^凡凡^凡六^凡 |

なん も かん も まっぴら だ うろ

五^凡-五^凡-五^凡 | 五仕^凡-一^凡五^凡 | 六^凡凡^凡-六^凡 | 五^凡〇^凡凡^凡-一^凡 |

ちよろ して も はじまら ぬ もう

仕^凡-一^凡五^凡六^凡 | 六^凡上^凡五^凡六^凡 | 凡^凡一^凡一^凡一^凡 | 一^凡〇^凡 |

なんもか も まっぴら さ

Let us pause in life's pleasures and count its many tears,
While we all sup sorrow with the poor;
There's a song that will linger forever in our ears:
Oh Hard times come again no more.

(Chorus)

'Tis the song, the sigh of the weary,
Hard Times, hard times, come again no more
Many days you have lingered around my cabin door:
Oh hard times come again no more.

While we seek mirth and beauty and music light and gay,
There are frail forms fainting at the door;
Though their voices are silent, their pleading looks will say
Oh hard times come again no more.

(Chorus)

There's a pale drooping maiden who toils her life away,
With a worn heart whose better days are o'er;
Though her voice would be merry, 'tis sighing all the day,
Oh hard times come again no more.

(Chorus)

'Tis a sigh that is wafted across the troubled wave,
'Tis a wail that is heard upon the shore
'Tis a dirge that is murmured around the lowly grave
Oh hard times come again no more.

(Chorus)

「喜びのかげにや涙あり」

みんな みんな 知ってるさ
小言も愚痴も 耳にタコ
もう なんもかも まっぴらさ

嘆いて ばかりで いいの？
※ なんも かんも まっぴらだ
うろちょろしても はじまらぬ
もう なんもかも まっぴらさ

おキレイなだけの 歌なんて
ゴミにして 投げ捨てろ
声なき声を 歌にしよう
そう「なんもかも まっぴらさ」
※

恋せよ乙女 他人の言う
幸せは続かない
陽気な声も 溜息に
ああ なんもかも
まっぴらさ ※

人生港に 浮かぶ声
岸打つ 叫び声
墓場に唱う お題目
そんなもん ばっか
歌う気かい？※

009. Nelly was a Lady

(尺合調)

尺六六凡 | エ凡六五 | 乙―― | 五―〇〇 |

ミ シ シ ッ ピ かわの な が れ

合乙―五六 | エ凡六五 | 尺六―― | ―――〇 |

ず い ぶ ん お つか れ だ

尺六六凡 | エ凡六五 | 乙―― | 五―〇〇 |

よ っ ぴ き わ た を は こ び

合乙―五六 | エ凡六五 | 尺六―― | ―――〇 |

ひ る に や こ い う た を

CHORUS

尺六六凡 | エ六―〇 | 尺五乙五六 | 尺五――〇 |

ネリーの ねえさ ん い っ た そ う な

合乙乙五六 | エ凡六五 | 合尺五乙五 | 尺六――〇 |

か ね を な ら せ い と し ネリー よ

ミ シ シ ッ ピ 河 の 流 れ
ず い ぶ ん お 疲 れ だ
夜 っ ぴ き 綿 を 運 び
昼 に や 恋 歌 を

※ ネリーの姐さん
逝ったそう
鐘を鳴らせ
愛し ネリーよ

こんなに泣き濡れては
綿も運びやせぬ
昨晚(ゆんべ)眠るネリーに
死神 訪(おと)のうた ※

Down on de Mississippi floating,
Long time I trabble on de way,

ALL night de cotton wood a toting,
Sing for my true lub all de day.

※ Nelly was a lady,
Last night she died;
Toll de bell for lubly Nell. My
dark Vilginny bride.

Now I'm unhappy and I'm weeping,
Can't tote de cotton wood no more;
Last night, while Nelly was a sleeping,
Death came a-knock'in at de door.

※ Nelly was a lady,
Last night she died;
Toll de bell for lubly Nell. My
dark Vilginny bride.

010. My Old Kentucky Home(尺合調)

五 | 乙-乙- | 六-五乙 | 仕-乙仕任 | 俣-〇仕 |
 な っ か し わが ふ るさと へ な
 乙五-六 | 六凡-六 | 五- | - | 五 |
 つの ひ きた れ ば は
 乙-乙- | 六-五乙 | 仕-乙仕任 | 俣〇六五 |
 た け は み のり は な は さ き きぎ
 乙-乙- | 五六乙五 | 六- | - | 〇六五 |
 に こ と り うた う おさ
 乙-乙- | 六-五乙 | 仕-乙仕任 | 俣-〇仕 |
 な ご は たわ む れあそ び わ
 乙五-六 | 六凡-六 | 五- | - | 〇五 |
 らい へ やに み つ さ
 乙-乙- | 六-五乙 | 仕-乙仕任 | 俣〇六五 |
 れ ど か なし そ は ゆめ か わか
 乙六仕乙 | 五-凡 | 六- | - | 〇 |
 るひと な り め

chorus

俣-乙仕任 | 俣乙- | - | 〇五- |
 あ あ わ が きみ し
 六-五 | 六-エ- | 六- | - | 〇六五 |
 の び た ま え いざ
 乙-乙- | 六-五乙 | 仕-乙仕任 | 俣-六五 |
 う た わん わか れ の ふし を さら
 乙六仕乙 | 五-五凡 | 六- | 〇 |
 ばケンタッ キーのい-え よ

1. 懐かし わがふるさとに
 夏の日 来たれば
 畑は実り 花は咲き
 木々に 小鳥歌う
 幼子 たわむれあそび
 笑い 部屋に満つ
 されど悲し そは夢か
 別るる 日となりぬ

※ああ わが君 しのびたまえ
 いざ歌わん 別れの節を
 さらば ケンタッキーの家よ

2. 今は丘や 野や海辺
 さすらう 日もあらず
 月の夜 家のほとりに
 歌うおりも あらず
 むなく 心に浮かぶ
 古き おもいでよ
 親しき わが はらからに
 別るる 日となりぬ
 ※

3. はるかに わが家をはなれ
 なんの やすきあらん
 されど はかなき 旅路も
 やがて 果つる日あり
 負いがたき 重荷でさえも
 耐えて われは負わん
 いまこそ わが はらからに
 別るる 日となりぬ
 ※

* 解説別掲

Oh, the sun shines bright in the old Kentucky home
 'Tis summer, the darkies are gay
 The corn top's ripe and the meadows in the bloom
 While the birds make music all the day

The young folks roll on the little cabin floor
 All merry, all happy and bright:
 By'n the Hard Times come a knocking at the door
 Then my old Kentucky home, goodnight!

※ Weep no more, my lady
 Oh, weep no more today!
 We will sing one song for the old Kentucky home
 For the old Kentucky home, far away

They hunt no more for the possum and the coon
 On the meadow, the hill and the shore
 They sing no more by the glimmer of the moon
 On the bench by the old cabin door

The day goes by like a shadow o'er the heart
 With sorrow, where all was delight:
 The time has come when the darkies have to part
 Then my old Kentucky home, good night!

※

The head must bow and the back will have to bend
 Wherever the darkey may go:
 A few more days, and the trouble all will end
 In the field where the sugarcane grow

A few more days for to tote the weary load
 No matter, 'twill never be light
 A few more days till we totter on the road
 Then my old Kentucky home good night!

※

011.0h Susannah! (尺合調)

六五 | 乙^合 俣^合 俣^合 立 | 俣^合 乙^合 六^合 五 | 乙^合 乙^合 五^合 六^合 | 五^合 一^合 一^合 六^合 五 |
 おら アラ パーマ うま れの バンジョー ひ き
 乙^合 俣^合 俣^合 立 | 俣^合 乙^合 六^合 五 | 乙^合 乙^合 五^合 五 | 六^合 一^合 一^合 六^合 五 |
 こい びと みつ けに ルイジ アナ ヘ そら
 乙^合 俣^合 俣^合 立 | 俣^合 乙^合 六^合 五 | 乙^合 乙^合 五^合 六^合 | 五^合 一^合 〇^合 六^合 五 |
 カラ カーラ てん きの あめ もよ い
 乙^合 俣^合 俣^合 立 | 俣^合 乙^合 六^合 五 | 乙^合 乙^合 五^合 五 | 六^合 一^合 一^合 〇^合 |
 カン カン でりで こごえ じめ よ

CHORUS

^合仕^合一^乙仕^乙一^合任^合任^合一^合任^合任^合乙^合六^合五^合一^合〇^合六^合五^合 |
 おお ス ザンナ な きなさん な おら
^合乙^合任^合任^合一^合任^合乙^合六^合五^合 |^合乙^合乙^合五^合五^合 |^合六^合一^合一^合〇^合 |
 アラ パーマ うま れの バンジョーひ き さ

おらアラバマ生まれの
バンジョー弾き
恋人見つけに
ルイジアナへ
そらカラカラ天氣の雨もよい
カンカン照りで凍え死ぬよ

※ おお スザンナ！ 泣きなさんな
おらアラバマ生まれの
バンジョー弾きさ

電線に飛び乗り
川下り
その電気の力で
皆殺し
暴走列車に暴れ馬
もうさすがにダメかと
目を閉じた ※

昨晚(ゆんべ)の夜更けに
 見た夢で
 おまえがあゝの丘
 駆けてきた
 お口にぐわえたパンの耳
 でもお目々はなぜだか
 涙色 ※

もうすぐ着くよ
ニューオリンズへ
あの娘がいたなら
天国さ
あの娘がいなけりや
地獄ゆき
葬式まんじゅう
食って笑え※

I come from Alabama with my Banjo on my knee
I'se gwine to Lou'siana my true lub for to see
It rain'd all night de day I left de wedder it was dry
The sun so hot I froze to def Susanna. don't you cry

※ Oh! Susanna, do not cry for me;
I come from Alabama,
Wid my Banjo on my knee.

I jump'd aboard the telegraph and trabbled down de ribber
De lectrick fluid magnified and kill'd five hundred Nigga
De bulgine bust and de boss ran off

I really thought I'd die
I shut my eyes to hold my bref Susanna don't you cry
※

I had a dream de udder night when ebry ting was still
I thought I saw Susanna dear coming down de hill
De buckwheat cake was in her mouf de tear was in her eye
I says, I'se coming from de souf Susanna don't you cry
✽

I soon will be in New Orleans, and den I'll look all'round,
And when I find Susanna, I'll fall upon de ground.
But if I do not find her, dis darkie'll surely die,
And when I'm dead and buried Susanna, don't you cry.
✱

012. Why No One To Love

(前奏・間奏)

工尺工 | 凡工凡 | 六^上仁一 | 尺^凡乙五六月 |

工乙仕 | 尺^上一仕 | 仕^上一 | 一^上一〇 |

工尺工 | 凡工凡 | 六^上仁尺 | 尺^凡一仕五 |

いとし もの なきよ は はた

工六尺工 | 六凡尺 | 工^上一 | 一^上一〇 |

ひかり あらぬ か

工尺工 | 凡工凡 | 六^上仁尺 | 尺^凡一仕五 |

ひとり ところ さまよ わ する

工六尺工 | 六凡尺 | 上^上一 | 一^上一〇 |

そらの あおく も

六凡六 | 乙^上一 | 六凡六 | 仕^上一 |

こい も なさけ も

工六^上一〇 | 工尺上 | 尺^上一 | 一^上一〇 |

そう すばら し

工尺工 | 凡工凡 | 六^上仁尺 | 尺^凡一仕五 |

いとし もの なけれ ば ただ

工六仕仁 | 尺^上五乙 | 仕^上一 | 一^上一〇 |

ためい ぎつの る

愛しもののなき世は はた 光あらぬか
ひとり心さまよわ する 空の青くも

※ 恋も 情けも

そう 素晴らし

愛しもののなければ ただ

溜息つる

闇を好みゐたれば はた 輝き失せて

御魂くすみさみしや そう 愛のなければ ※

誰かひとりこの世に はた 思い人あれ

喜び悲しみすべ てを わかち合えれば ※

No one to love in this beautiful world, Full of
warm hearts and bright beaming eyes?

Where is the lone heart that nothing can find That is
lovely beneath the blue skies:

※ No one to love, No one to love,
Why no one to love?

What have you done in this beautiful world,
That you're sighing of no one to love?

Dark is the soul that has nothing to dwell on!
How sad must its brightest hours prove!
Lonely the dull brooding spirit must be
That has no one to cherish and love.

※

What have you done in this beautiful world,
That you're sighing of no one to love?

Many a fair one that dwells on the earth
Who would greet you with kind words of cheer,
Many who gladly would join in your pleasures
Of share in your grief with a tear.

※

Where have you roamed in this beautiful world,
That you're sighing of no one to love?

013. Beautiful Dreamer

工 仕乙仕六――工―― | 尺(上尺)五――― |
ゆめじよ り かへりて

合^乙上^五六凡凡工尺 | 工^六-----○ |
ほしのひかりあをげば

工^上仕乙仕六^上――工^上――|尺(上尺)五^上――――|
 さはがし き ま ひる の

合^上六乙五五六凡凡工尺 | 上^六----- |
わ ざ も い ま は お は り め (ああ)

尺^凡六凡尺(巻)――上――五――― | 尺^凡五六工上―――六――― |
ゆめみる は わがきみ

工^工仕^工乙^工仕^工五^工—^工—^工沢^工—^工仕^工 | 乙^工仕^工五^工六^工—^工—^工—^工—^工—^工 |
き か ず や わ が し ら べ を

工^上仕乙仕六——工—— | 尺(上尺)五———— |
なりはひ の う れひ も

合^上六乙五五六凡凡工尺 | 工^六-----○ |
あともなくきへゆけ ば

五^上乙仕仕六^五工凡工尺 | 上^六----- |
ゆめじよりかへりこよ

夢路より 還りて

星の光 仰げば

開しき 真昼の

業も今は終はりぬ

夢見るは 我が君

聞かずや 我が調べを

生業の憂いも

跡もなく消へゆけば

夢路より 還り来よ

海辺より 聞こゆる

歌の調べ 聴かずや

立ち昇る 川霧

朝日うけて 耀よふ

夢見るは 我が君

明けゆく 御天の色

悲しみは 雲井に

跡もなく消へゆけば

夢路より 還り来よ

Beautiful dreamer, wake unto me,
Starlight and dewdrops are waiting for thee;
Sounds of the rude world heard in the day,
Lull'd by the moonlight have all pass'd away!

Beautiful dreamer, queen of my song,
List while I woo thee with soft melody:

Gone are the cares of life's busy throng.
Beautiful dreamer, awake unto me!
Beautiful dreamer, awake unto me!

Beautiful dreamer, out on the sea
Mermaids are chaunting the wild lorelie;
Over the streamlet vapors are borne,
Waiting to fade at the bright coming morn.

Beautiful dreamer, beam on my heart,
E'en as the morn on the streamlet and sea;

Then will all clouds of sorrow depart,
Beautiful dreamer, awake unto me!
Beautiful dreamer, awake unto me!

* 解説別掲

014. Dolly Day

(前奏・間奏)

尺-工尺六 | 乙-尺尺 | 工-六工六 | 仕-〇仕 |

乙-尺- | 工仕六五 | 乙-仕乙五六五 | 六- -

尺 | 尺-工尺六 | 乙-尺尺 | 工-六工六 | 仕-〇仕 |

さあ ならせや バンジョウ こきゅうも ね

尺-乙-尺- | 工仕六五 | 乙-仕乙五六五 | 五- - 尺 |

おう たも しごとも い しょく た

尺-工尺六 | 乙-尺尺 | 工-六工六 | 仕-〇仕 |

か みさん なんて し らんけ ど

尺-乙-尺- | 工仕六五 | 乙-仕乙五六五 | 六- - 六五 |

ドリー デイの ことなら なんでもござ れ おお

尺-乙-尺- | 工仕六五 | 乙乙五六 | 五-〇五 |

ドリー デイ ベっぴんさんよ それぞれまわ れ さあ

尺-乙-尺- | 工仕六五 | 乙乙五五 | 六- - 〇 |

まね して おどろや おみあしかろ く

上合調で弾けるが、メロディをなぞるだけなら、開放で「尺」が使える尺合調のほうが良い。
コードは上合調に準拠。カッティングでリズムを刻む。

さあ 鳴らせやバンジョウ 胡弓もね
お歌も仕事も いっしょくた
神さんなんて 知らんけど
ドリー・デイのことなら
なんでもござれ

※ おおドリー・デイ ベっぴんさんよ
※ それぞれ まわれ
さあ 真似して 踊ろや
お御足軽く

そう 牧場はずっと 緑色
タバコもキビも 豊作の
故郷はとおに 荒みしが
ドリー・デイはいまでも
輝くよ ※

I've told you 'bout de banjo,
De fiddle and de bow,
Like-wise 'bout de cotton-field,
De shubble an de hoe;
I've sung about de virgine,
That blew de folks away,
And now I'll sing a little song
A-bout my Dolly Day.

※ Oh! Dolly Day looks so gay,
I run al'round and round,
To hear her fairy footstep play,
As she comes o'er de ground.

I like to see de clover,
That grows 'bout de lane,
I like to see de 'bacco plant,
I like de sugar cane;
But on de old plantation,
There's nothing half so gay,
There's nothing that I love so much,
As my Sweet Dolly Day. ※

015. Ellen Bayne

上^上一^上六^上 | 仁^上一^上仕^上〇 | 五^上一^上仕^上五^上 | 六^上一^上一^上〇 |

あは きま どろみ とお のけ ば

上^上一^上六^上 | 仁^上一^上仕^上〇 | 仁^上一^上仕^上乙^上 | 仕^上一^上一^上〇 |

くさぐさ よする むね のう ち

五^上一^上乙^上仕^上 | 仕^上一^上六^上六^上 | 凡^上五^上仕^上仁^上 | 仁^上一^上一^上〇 |

ゆめつた な くも のぞみあ り

上^上一^上六^上 | 仁^上一^上仕^上〇 | 仁^上一^上仕^上乙^上 | 仕^上一^上一^上〇 |

え が お さく か あ あ エレン ベイ ン

仁^上六^上五^上仕^上 | 仁^上一^上仕^上一^上 | 仁^上六^上五^上仕^上 | 仁^上一^上仕^上一^上 |

やすらに ねむれ くすしき ゆめに

上^上上^上一^上六^上 | 仁^上一^上仕^上一^上 | 仁^上一^上仕^上乙^上 | 仕^上一^上一^上〇 |

はたにま もらむ ああ エレン ベイ ン

淡き微睡
遠退けば
くさぐさ寄する

胸のうち
夢つたなくも
のぞみあり
笑顔 咲くか
おお エレン・ベイン

※ やすらに眠れ
くすしき夢に
傍に 護らむ
おお エレン・ベイン

夢見のやすく
穏やかに
言葉いらぬ
愛あらば
寝ても覚めても
健やかに
温もりのうち
おお エレン・ベイン
※

Soft be thy slumbers,
rude cares depart,
Visions in numbers
cheer thy young heart,
Dream on, while bright hours
and fond hopes remain,
Blooming like smiling bow'rs
for thee, Ellen Bayne.

※ Gentle slumbers o'er thee glide,
Dream of beauty round thee bide,
While I linger by thy side,
Sweet Ellen Bayne.

Dream not in anguish,
dream not in fear;
Love shall not languish:
fond ones are near,
Sleeping, or waking,
in pleasure or pain,
Warm hearts will beat for thee,
Sweet Ellen Bayne.

※

チャーキングは「凡^上」一箇所のみであるが、「上」が使われるので尺合調では弾けない。

なお尺合調だと、「尺」「六」より開始の2パターンがあるが、どちらもチャーキングが多かったり、高音すぎたりでいまひとつ優点がない。

上合調でのんびり弾きながら唱えるのがよからう。

016. Farewell, My Lilly Dear

五 上^レ六^レ工^レ尺^レ上^レ 上^レ仕^レ一^レ仁^レ退^レ 尺^レ仕^レ五^レ六^レ工^レ 尺^レ一^レ上^レ尺^レ |
お り り さ ん や ちよいと き い と く れ そら

工^レ六^レ六^レ仕^レ 合^レ仁^レ退^レ仕^レ一^レ 尺^レ尺^レ五^レ乙^レ 上^レ仕^レ一^レ五^レ |
だ ん な の せ い さ こ こ に や お ら れ ん い

上^レ六^レ工^レ尺^レ上^レ 上^レ仕^レ一^レ仁^レ退^レ 尺^レ仕^レ五^レ六^レ工^レ 尺^レ一^レ上^レ尺^レ |
と し り り さ ん テ ネ シ も さ ら ば な く

工^レ六^レ六^レ仕^レ 合^レ仁^レ退^レ仕^レ一^レ 尺^レ尺^レ五^レ乙^レ 上^レ仕^レ一^レ〇^レ |
に や お よ ば な い よ お い ら の た め に

[上^レ六^レ一^レ六^レ一^レ 上^レ五^レ仕^レ一^レ仁^レ 尺^レ尺^レ一^レ仕^レ尺^レ 合^レ仁^レ一^レ〇^レ |
さ ら ば ふ る さ と テ ネ シ

上^レ仕^レ一^レ乙^レ五^レ 上^レ六^レ仕^レ仁^レ一^レ 尺^レ尺^レ一^レ仕^レ乙^レ 上^レ仕^レ一^レ〇^レ |]
さ ら ば り り さ ん な く な よ

おりりさんや ちよいと
聞いとくれ
そら旦那のせいさ
ここにやおられん
愛しりりさん
テネシーもさらば
泣くにやおよばないよ
おいらのために

※さらば ふるさと テネシー
さらば りりさん
泣くなよ
(2回くりかえし)

どこかにある
場所に行くんだ
ただバンジョウ弾いてりゃ
いい世界
そんなところに
たどりつくまで
旅路は続くよ
愛し人よ
※

Oh! Lilly dear it grieves me,
The tale I have to tell:
Old mas'sa sends me roaming,
So, Lilly, fare you well!
Oh! fare you well, my true love,
Fare-well, old Tenessee;
Then let me weep for you, love,
But do not weep for me,

※ Farewell, Farewell to old Tenessee
Farewell my Lilly dear,
Don't weep for me.

※

I's going to roam the wide world,
In lands I never hoed;
With nothing but my banjo,
To cheer me on the road,
For when I'm sad and weary,
I'll make the banjo play,
To mind me of my true love,
When here I am far away.
※※

017. 0 Boys Carry Me Long

合 尺一 一 尺 乙 仕 尺 六 一 一 一 五 一 尺 乙 一 乙 尺 五 六 一
 さあ ひきゆ け の ぞ み さらな
 尺 五 一 一 一 〇 五 尺 乙 一 乙 尺 仕 一 仕 合 尺 一 尺 合 尺 一 尺 一
 し ゆ く は し も べ わ け な き し
 合 尺 一 乙 尺 五 六 五 尺 五 一 一 一 〇 尺 合 尺 一 一 尺 乙 仕 尺 一
 あ わ せ な く に な が き ひ
 尺 六 一 一 一 一 五 尺 乙 一 乙 尺 乙 五 六 尺 五 一 一 一 〇 五 一
 ひ は た き た が や す ま
 尺 乙 一 乙 尺 仕 一 仕 合 尺 一 尺 合 尺 一 尺 合 尺 一 尺 一 乙 尺 五 六 五 一
 つ ご ひ と み う か ぶ も き ひ み の る の
 尺 六 一 一 一 一 〇 一
 か

Chorus

合 尺 一 一 合 尺 一 一 尺 乙 仕 尺 六 一 一 尺 乙 一 乙 尺 五 六 一
 そ ら ひきゆ け わ れ は ゆ くる
 尺 五 一 一 一 一 〇 尺 乙 乙 乙 尺 仕 一 仕 合 尺 一 尺 合 尺 一 尺 一
 ゑ ひ き て つ ち と か へ せ よ
 尺 乙 〇 尺 五 一 五 尺 六 一 一 一 一 〇 一
 と の な か る な

メロディをなぞる場合は、低音弦の音がないので、上合調でも尺合調でも同じであるが、コード弾きの伴奏は、「尺」を開放で使える尺合調のほうが美しい。

さあ 挽きゆけ
 望み さらなし
 往くは 僕 別無き
 しあわ せな国

永き日々
 畑を耕す
 末期 種 浮かぶも
 黍 稔る野か

※ そら 挽きゆけ
 私は逝くるぞ
 挽きて 土と還せよ
 殿…泣かるな

日々所領の
 隅の隅まで
 法螺を 鳴らし 安らげ
 隣 はらふた

とおに 役なし
 臣等 弔へ
 法螺も 舞て 我身も
 隣 はらえぬ

※ 子等 さらばよ
 荒馬どもよ
 歌へ歌へ 日長を
 踊れ 朝まで

畑 さらばよ
 綿と苧の
 畝は はるか続きて
 稲穂 そよぐよ

※ 草の丘
 青く天まで
 斑牛も 茸毛も
 瘦せ 打たれぬ

※ 我が犬や
 常にはべりし
 我の土に埋まらば
 長尾 垂るかな

Oh! carry me 'long;
 Der's no more trouble for me:
 I's guine to roam
 In a happy home
 Where all de niggas am free,
 I've worked long in de fields;
 I've handled many a hoe:
 I'll turn my eye,
 Before I die,
 And see de sugarcane grow.

※ Oh! boys, carry me 'long;
 Carry me till I die
 Carry me down
 To de buryin' groun'
 Massa, don't you cry.

All ober de land
 I've wandered many a day,
 To blow de horn
 And mind de corn
 And keep de possum away.
 No use for me now
 So darkeys bury me low:
 My horn is dry,
 And I must lie
 Whar de possum
 nebber can go.

※

Farewell to de boys
 Wid hearts so happy and light,
 De sing a song
 De whole day long,
 And dance de juba at night.
 Farewell to de fields
 Ob cotton, 'bacco, and all:
 I's guine to hoe
 In a bressed row
 Wha de corn grows
 mellow and tall.

※

Farewell to de hills,
 De meadows covered wid green,
 Old brindle Boss
 And de old grey hoss
 All beaten, broken, and lean.
 Farewell to de dog
 Dat always followed me round:
 Old Sancho'll wail
 And droop his tail
 When I am under de ground.
 ※

018. SLUMBER MY DARLING

工尺上	尺工尺	上工五	六--
Slumber, my	dar-ling, thy	mo-ther is	near
仕乙五	六凡工	工尺上	尺--
Gurd-ing thy	dreams from all	ter-ror and	fear,
工尺上	尺- 工	上工五	六--
Sun-light has	pass'd and the	twi-light has	gone
五乙仕	仕上尺	工〇尺	上--
Slum-ber, my	dar-ling, the	ni-ght's com-ing	on.
六--	尺六凡	工- 六	仕--
Sweet	vi-sion at-	tend thy	sleep,
尺- 尺	尺六凡	工--	-- 〇
Fond- est,	dear-est to	me.	
六--	尺六凡	工六-	仕--
While	oth-ers their	rev- el	keep,
乙- 乙	五乙五	六--	-- 〇
I will	watch o-ver	thee.	
工尺上	尺工尺	上工五	六- 〇六
Slumber, my	dar-ling, the	birds are at	rest, The
仕乙五	六- 凡工	工尺上	尺--
wan-der-ing	de-ws by the	flower's are car-	essed,
工尺上	尺工尺	上工五	六- 〇六
Slumber, my	dar-ling, I'll	wrap thee up	warm. And
五- 乙仕	仕上尺	工- 凡 尺	上--
pray that the	angels will	shield thee from	harm.

Slumber my darling, thy mother is near
Guarding thy dreams from all terror and fear.
Sunlight has past and the twilight has gone,
Slumber my darling, the night's coming on.
Sweet visions attend thy sleep
Fondest, dearest to me,
While others their revels keep,
I will watch over thee.
Slumber my darling, the birds are at rest,
The wandering dews by the flowers are caressed,
Slumber my darling, I'll wrap thee up warm,
And pray that the angels will shield thee from harm.

Slumber my darling till morn's blushing ray
Brings to the world the glad tidings of day:
Fill the dark void with thy dreamy delight
Slumber, thy mother will guard thee tonight.
Thy pillow shall sacred be
From all outward alarms;
Thou, thou art the world to me
In thine innocent charms.
Slumber, my darling, the birds are at rest,
The wandering dews by the flowers are caressed;
Slumber, my darling, I'll wrap thee up warm,
And pray that the angels will shield thee from harm.

母の御そば ねむれや 御子の夢路 まもらむ
日暮れ夕べ いたれば 夜の御うち ねむれや

やさし うたかた も ろ ともに
誰(た)が たわぶれち やすく ねむれよ

小鳥たちも ねむるよ 露も花と あそぶよ
母のむねに ぬくめよ 天の御蔭(みかげ) 賜へよ

019. 主人は冷たい土の中に (尺合)

五--乙	五凡工尺	伏----	乙--○
く	さはらめく	る	は
五-凡-	凡--尺	工----	----○
も	がりう	た	
五--乙	五凡工尺	伏----	乙--○
た	のしきあの	こ	ろ
乙五凡尺	凡-工-	尺----	----○
こ	とりのう	た	う
五--乙	五凡工尺	伏----	乙--○
な	つくさおが	り	し
五-凡-	凡--尺	工----	----○
か	のおか	に	
五--乙	五凡工尺	伏----	乙--○
あ	るじはねむ	る	よ
乙五凡尺	凡-工-	尺----	----○
つ	めたきつ	ち	に

伏----	仕'-乙-	五----	凡--○
か	なし	う	た
乙-五-	凡--尺	工----	----○
は	たに	たに	
五--乙	五凡工尺	伏----	乙--○
い	たまぬもの	な	き
乙五凡尺	凡-工-	尺----	----○
あ	るじの	た	め

草原めぐるは もがり歌
たのしきあのところ 小鳥の唄う

夏草おがりし かの丘に
主人は眠るよ 冷たき土に

*かなし歌 畠に田に
悼まぬ者なき 主人のために

1) Round de meadows am a ringing
De darkey's mournful song
While de mocking bird am singing
Happy as de day am long

Where de ivy am a creeping
O'er de grassy mound
Dare old massa am sleeping
Sleeping in de cold, cold graound

(chorus)
Down in de cornfield
Hear dat mournful sound
All de darkeys am a weeping
Massa's in de cold, cold gound

落ち葉の舞い散る ころくれば
吾また老いぬる 呼ぶ声近し

柚の花かほりて 季もめぐり
歳々すぐれど 主人還らず

*

心根ただしき かの人を
いまなを吾等も ただただ悼む

思えば涙の あふれいず
爪弾く弦音に 悲しみ暗らそ

*

2) When de autumn leaves were falling
When de days were cold
Twas hard to hear old massa calling
Cayse he was so weak and old

Now do orange tree am blooming
On de sandy shore
Now de summer days am comming
Massa nebber calls no more
(chorus)

3) Massa made de darkeys love him
Cayse he was so kind
Now, dey sadly weep above him
Mournin cayse he leave dem behind

I can not work before tomorrow
Cayse de teardrop flow
I try to drive away my sorrow
Pickin' on de old banjo
(chorus)

仩- <u>尺</u>	仕- - 五	六-工-	尺上尺工
い ぎ	ね む	れ や	り る べ る
尺-工- <u>尺</u>	上-工-	六-仕-	仩- - -
ふれあ な-が	さ と ほど	ち か	く
-○ <u>仩-尺</u>	仕- - 五	六-工-	尺上尺工
う-き	よ の	つ- なに	じょう の い
尺-工尺	上工六仕	仩-尺-	仕- - -
と と-く	ほ ど か れ	ゆ- け-	ば-
- - - ○			
-			
CHORUS			
六尺仕 [#] 尺	仩-尺-	仕-五-	六○仕-
み ず か ぜ	み- つ-	み- よ-	も ああ
五仕六五	工-尺上	尺-仩- <u>尺</u>	仕- - 五
み ぐ し に	た- らあ	ず- か の	う た
六-工-	尺上尺工	尺-工尺	上工六仕
ご- え-	す で に な	し す で	にい なし
仩-尺-	仕- - -	- - - ○	
り-る べ-る	ふれ- - あ		

Little Belle Blair 020.

We have made a grave for little Belle Blair,
In the field beyond the town,
In the world she lived without a passing care,
And her brow was ever free from a frown.

chorus:

Happy as the live long day was she,
And flowing was her dark glossy hair,
We will hear no more her winning melody,
For we've parted with our little Belle Blair.

In the balmy spring we wandered side by side,
Through the hours of health and glee,
And our joys flowed on with ever gushing tide,
Like the bubbles of the wide blue sea.

chor:

In the bloom of youth and all her childish mirth,
In the May day of her life,
She has left the cares and busy broils of earth,
For a better world beyond all strife.

chor:

いざ暇れや りるべるふれあ
汝(な)が里ほどこかく
浮世の網に情の糸
疾く解(ほど)かれゆけば

*瑞風(みずかぜ)満つ御代ち
ああ、御覧(みぐし)に足らず
彼の歌声すでになし
すでになし りるべるふれあ

のどかな春 おちこちと
さまよふちよろし
よろこび満くうたかたか
新き波に絶えず
*

おさなき汝の命数は
春盛りに絶えて
宿世(すくせ)の縁にはなたれて
天(そら)はるかと思ふ
*

021. Lula is Gone

With a heart forsaken I wander
In silence, in grief and alone
On a form departed I ponder
For Lula, sweet Lula is gone

Gone when the roses have faded
Gone when the meadows are bare
To a land by orange blossoms shaded
Where summer ever lingers on the air

* Lula, Lula, Lula is gone;
With summer birds her bright smiles
To sunny lands have flown
When day breaketh gladly
My heart waketh sadly
For Lula, Lula is gone

Not a voice awakens the mountains
No gladness returns with the dawn
Not a smile is mirrored in the fountains
For Lula, sweet Lula is gone

Day is bereft of its pleasures
Night of its beautiful dreams
While the dirge of well remembered measure
Is murmured by the ripple on the streams

*

When I view the chill blighted bowers
And roam o'er the snow covered plain
How I long for spring's budding flowers
To welcome her sweet smiles again

Why does the earth seem forsaken?
Time will this sadness remove;
At her voice the meadows will awaken
To verdure, sweet melody and love

*

夜のあけて見る世は
木霊(すだま)さえ返すなく
水面に映せしあの
愛しき笑顔もとむ

日には笑みもなく
夜には夢のみ
ひたに悲しみの唄
せせらぎがごと流る

*

はるか山のかがやく
雪の野を踏みゆけば
こころもとなき春
あの笑顔戻らむや

打ち捨つれる野や
悲しみ満つる
甘き歌声やあれ
さすれば春も芽吹く

*

*るうら るうら るうら いず こん
小鳥も歌うさ
その笑顔
夢のうきはし
明けりや 途絶えて
るうら るうら るうら いず こん

〇〇工凡	六――六	五仕仕五	六――
ひと	り	か	なしみに
工―〇六	五伏仕五	六工尺上	尺――
る	か	たるもの	なきうち
―〇工凡	六――六	五仕仕五	六――〇
おも	い	め	くりめぐ
工―〇六	五伏仕五	六工尺尺	上――
はい	とお	しき	あのごへ
―――〇	伏―仕乙	乙―五乙	仕――
	ば	らと	と
六―〇〇	伏―仕乙	乙―五乙	仕――
ゆ―	か	れの	を
〇〇工凡	六――六	五仕仕五	六――
かう	じ	か	ほりたつ
工―〇六	五伏仕五	六工尺尺	上――
へ	な	つ	そらの
―――〇			

六―工〇	六―工〇	五仕仕五	六――六
るう	ら	るう	らいず
六凡五凡	工―六工	工尺尺工	尺―〇尺
こと	りい	ち	うた
工―尺工	凡―工凡	合―凡合	五仕乙五
め	の	う	き
六―工〇	六―尺工	上――	―――〇
るう	ら	るう	らいず

002. Jeanie with the light brown hair

邦題では「金髪のジェニー」とされることが多いが、原題の発音は「ジニー」に近く、しかも「薄茶色の髪の毛」である。正確に言うなら“light brown”は「亜麻色」よりはやや暗めだが、ちょうどいい表現がないので代用しておく。

器楽としてトレモロでメロディを弾くならD/Gのほうが美しく、歌唱との伴奏ではC/Gでコード弾きを交えたもののほうが望ましい。

003. OLD FOLKS AT HOME (Swanee River)

原題“Old folks at home”より、通称の「スワニー河」のほうで知られる。
前曲同様、メロディを聞かせるなら尺合調のほうが良い。
歌唱の伴奏は上合調で、各小節頭に開放弦の音を加える程度が聞きやすい。

007. Glendy Burke

上合調で組んであるが、要チョーキング箇所は「凡▼」のみなので、尺合調にして開放音をからませながら弾いたほうが良い。

010. My Old Kentucky Home

チョーキングは「凡▼」のみなので、上合調でも良いが、尺合調のほうが若干耳触りが良い。
小文字のコード弾符も尺合調に順ずる。よって低音開放は「尺」, 「凡」はデフォルトで半音上のF'である。

013. Beautiful Dreamer

原譜9/8。そのままだと読み解きづらいため、工尺符は各符の音長を2倍にしてある。
メロディをなぞった場合、上合調の場合だとどうしても2音足りない。「𪛗(乙のオクターブ下)」は「乙」として弾いても良いが、「上▼」は月琴だとどうやっても出せないの、
「尺(上▼尺)五」は「尺ー五」と2音飛ばして弾く。
尺合調にした場合も状況はあまり変わらないうえ、出だしが「𪛗▼」と、清楽月琴ではいきなりチョーキングからはじまることとなるなど、演奏上の困難が多い。
歌唱との伴奏を主として考えた場合、出せない2音をあきらめて、上合調でメロディをなぞるか、コード弾きに徹するのが最も有効と考える。

Carry Me Back To Old Virginny (尺合調)

乙乙一仕 | 乙一五 | 五一一工 | 尺六一〇 |
かへ ら む なつ か し-の ちへ

尺一六五 | 乙乙仕乙 | 乙五五乙 | 五一一〇 |
わ た-に とお き-び いもみの る

乙一仕乙 | 乙一五六 | 五一六工 | 尺六一〇 |
は るにや と りあ ま く-う たふ

尺一六五 | 乙乙仕乙 | 乙五六凡 | 六一一〇 |
ほ く-の ころも そこに-あ る

五一五乙 | 仕伕仕乙 | 乙一乙止 | 伕乙一〇 |
あ-るじ-の た-めとて し お-に かく

伕一仕乙 | 乙一五六 | 六工凡六 | 五一一〇 |
とお き-び は た-に ひもくれ て

乙一仕乙 | 乙一五六 | 五一六工 | 尺六一〇 |
よ に-ほ か かは る も-あ らね

尺一六五 | 乙乙仕乙 | 乙五六凡 | 六一一〇 |
な-つか-し ヴァージニィ わが こきよ う

還らむ懐かしの地へ
綿に唐黍 芋稔る
春にや鳥甘く歌ふ
僕の心のそこにある

主のためと手塩にかく
唐黍畑に日も暮れて
世に他かはるもあらね
懐かしヴァージニィ わが故郷

還らむ懐かしの地へ
この身 枯れて果てるまで
かの大沼 めぐりながら
僕の命の 尽くるまで

主も刀自もとおに亡く
天の原にいまは待つ
悲しみも憂いもなく
ずっと微笑み待っている

Carry me back to old Virginny.
There's where the cotton and the corn and tatoes grow.
There's where the birds warble sweet in the spring-time.
There's where this old darkey's heart am long'd to go.

There's where I labored so hard for old Massa,
Day after day in the field of yellow corn;
No place on earth do I love more sincerely
Than old Virginny, the state where I was born.

Carry me back to old Virginny,
There let me live till I wither and decay.
Long by the old Dismal Swamp have I wandered,
There's where this old darkey's life will pass away.

Massa and missis have long gone before me,
Soon we will meet on that bright and golden shore.
There we'll be happy and free from all sorrow,
There's where we'll meet and we'll never part no more.

Green Sleeves

五 | 仕一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 六^ハ一^ハ |

あ らあす まい らあぶゆう どう みい ろおん とう

仕一^ハ | 五^ハ一^ハ | 乙^ハ一^ハ | 乙^ハ一^ハ |

きやす み あふ でいす こおてう すりい ふお

仕一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 六^ハ一^ハ |

ない はぶ らあ(ぶ)どゆう うえる えん ろおおん(ぐ)

仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ |

でいらあい ていん いん いえ かあんば にい

仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 六^ハ一^ハ |

ぐりいん すりいばさあず あーる まい じょおおい

仕^ハ一^ハ | 五^ハ一^ハ | 乙^ハ一^ハ | 乙^ハ一^ハ | 乙^ハ一^ハ |

ぐりいん すりいぶすあず まい でい らい(と)

仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 六^ハ一^ハ |

ぐりいん すりいばあすまい はあたぶ ごおお(で)えん

仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ | 仕^ハ一^ハ |

ふうばつ(と)まい れえい-でいぐりいん すりい(ぶす)

Alas, my love, you do me wrong,
To cast me off discourteously!
For I have loved you so long,
Delighting in your company.

Greensleeves was all my joy,
Greensleeves was my delight,
Greensleeves was my heart of gold,
And who but my lady greensleeves?

Alas, my love, that you should own
A heart of wanton vanity!
So must I meditate alone
Upon your insincerity?

Greensleeves was all my joy,
Greensleeves was my delight,
Greensleeves was my heart of gold,
And who but my lady greensleeves?

Your vows you've broken like my heart.
Oh, why did you so enrapture me?
Now I remain in a world apart,
But my heart remains in captivity.

Greensleeves was all my joy,
Greensleeves was my delight,
Greensleeves was my heart of gold,
And who but my lady greensleeves

Danny Boy

○工凡六 | 五^凡—一六 | 五^工伕仕五 | 六^上凡尺^六— |
まきば の ふ えのねは ひびく

○凡五五 | 仕^凡—一伕 | 仕五凡五 | 六^上—一〇 |
やまか ら や まへかけ て

○工凡六 | 五^凡—一六 | 五^工伕仕五 | 六^上凡尺^六— |
なつゆ き バ ラもはや おちて

○工凡六 | 五^凡—一五^上 | 五六凡六 | 凡^上—一〇 |
わかれ の と きはきた よ

○仕伕仕 | 伕^四—一仕 | 仕^合伕仕仕 | 仕^上五凡^五 |
もしも た に にゆきが ふれば

○仕伕仕 | 伕^四—一仕 | 仕^合伕仕五 | 六^上—一〇 |
ふたた び か えりませ よ

○仕乙仕 | 仕^上伍—一^上伕 | 伕^上伕仕仕 | 仕^上五凡^五 |
いとし き み をここに まとう

○工凡六 | 五^凡伕仕五 | 六^上凡尺上 | 凡^上—一〇 |
ひるも よるもた ださびし く

牧場の笛の音は響く
山から山へかけて
夏ゆき薔薇もはや落ちて
別れの時はきたよ
もしも谷に雪が降れば
ふたたび還りませよ
愛しき身をここに待とう
昼も夜もただ寂しく

また遭うその日が来ても
われ世を去りてなくば
奥津城に花をささげ
わがために祈りてよ
その声はよし低くとも
奥津城はなごやかに
君のまごころうれしみて
静かに眠ろよ永久に

O Danny boy, the pipes, the pipes are calling
From glen to glen and down the mountainside
The summer's gone and all the roses falling
'Tis you, 'tis you must go and I must bide.

But come ye back when summer's in the meadow
Or when the valley's hushed and white with snow
'Tis I'll be here in sunshine or in shadow
O Danny boy, O Danny boy, I love you so.

But if ye come and all the flowers are dying
If I am dead, as dead I well may be,
You'll come and find the place where I am lying
And kneel and say an Ave there for me.

And I shall hear, though soft, your tread around me
And all my grave shall warmer, sweeter be
Then you'll bend down and tell me that you love me,
And I will sleep in peace until you come to me.

上 合(六)

尺 (五)

ハ

凡 合(六)

伏

太ド 細ソ

小工調 (4 C / 4 G)

1 ド ソ 5

2 レ

3 ミ

4 ファ

5 ソ

太 細

数字譜・ドレミ

レ 尺 合(六)

ミ 尺 (五)

ファ (F#) 凡

ソ 合(六)

伏

太ド 細ソ

尺合調 (4 D / 4 G)

猫叉堂藏

